子どもとお年寄りの交流プロジェクト
活動報告

8 月 2 日～3 日、県立新翔高校の生徒 4 名が色川を訪れ、お年寄りとの交流を通じたむらの暮らしを体験しました。

色川に到着後、早速わらぞうり作りを体験。わらぞうりは始めに数本の縄を結び、その縄を土台にして枠を作って、編みこんでいきます。日常にはない作業に悪戦苦闘しながらも、講師のお年寄りから「初めてなのに上手」「最初からうまくできる人なんていないよ」など、励ましの言葉をもらい、自分で履くわらぞうりを仕上げていきました。また、「新しいぞうりは履きよいから、昔はわざと早く履きつぶしたりしてね」「お母さんのを見ながら、小学校ぐらいから作っとったよ」などわらぞうりにまつわる昔の話を聞きながら作業が進みました。

わらぞうり作り

さらに、この時期一番大変な作業である田んぼの「草取り」作業を体験。夕食時には、鶏を締める作業を見学し、普段何気なく食べているお米も誰かの働きのおかげであること、また、「命あるものの命を絶ち、それをいただいて自分たちは生かしてもらっている」という、生きることの根本を日々実感する田舎暮らしの一端を体験しました。

鶏をさばく

その他、色川の伝統食である「めはり寿司」作りや新鮮なブルーベリージュース作り、まだあまり知られていない名所である仙人滝を地元の人の案内で回るなど、地元のお年寄りを通じて、むらの暮らしが凝縮された 1 泊 2 日となりました。

地元の人に回してもらいながら、ワラがやわらかくなるまで叩く

摘み頃のブルーベリーを探す